

三重県津市における沈下橋への意識調査

The intention survey for submerging bridge in Tsu city, Mie prefecture

○西脇祥子*¹, 岡島賢治*², 稲垣 晃樹*³
Shoko NISHIWAKI, Kenji OKAJIMA, Koki INAGAKI

1.はじめに

沈下橋とは、普段水が流れているところに架橋され、床板が河川敷の土地と同程度の高さとなっている橋を指す。洪水時には橋面が水面下になるため地域によって「潜水橋」「沈み橋」などと呼ばれる。(以下沈下橋)昭和初期に地域住民が対岸へ渡るために架橋され、生活する上で重要な役割を担い地域の景観に溶け込んでいた。現在も日本全国に多くの沈下橋が存在する。しかし、抜水橋の新設による利用頻度の低下、近隣住民の転落事故等を理由に姿を消しつつある。その一方で、四万十川流域では地域の文化的景観、技術的遺産、観光資源として保存する動きもあり、高知県では「四万十川沈下橋保存方針」も定められている。

このような文化的・景観的に価値のある沈下橋は、三重県においても雲出川流域、櫛田川流域、木津川流域、熊野川流域に存在する。稲垣ら(2016)はこれらの沈下橋の管理状況を調査し、沈下橋周辺の住民へのヒアリングを行うことで三重県における沈下橋の現状を明らかにした。本研究では、三重県津市において沈下橋を知らない人を含みアンケート調査を行うことで、沈下橋を地域資源として活用する可能性を探った。

2.調査手法・対象

調査地としては、地元住民、観光客のどちらも利用する施設として道の駅「高野尾花街道 朝津味」を選定した。来訪者、従業員に対して対面方式で回答してもらえるかを確認し、配票自記方式をとった。回答者が質問の内容や、沈下橋について疑問を持った時の為にそばで待機し、疑問を呈した場合は説明をした。

調査の結果、全体で112人の回答を得ることができた。男女別では、男性:43人 女性:69人、世代別では、20代:7人 30代:9人 40代:10人 50代:18人 60代:37人 70代:27人 80代:4人 となり、高齢者の方の回答が多い結果となった。

3.調査項目

調査項目は大きく以下の5つに分類した。

1. 回答者の属性。(年齢, 性別, 住所) 2. 旅行先を決める際の決定要因。(問 1~3) 3. 沈下橋の写真を見てもらい、沈下橋に対してどういった印象を持つか。(問 4~7) 4. 沈下橋を利用した経験の有無, またその時期。(問 8~9) 5. 沈下橋の保全についてどう思うか。(問 10~13)

*¹ 東京大学大学院新領域創成科学研究科 Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo, *² 三重大学大学院生物資源学研究所 Mie University Graduate School of Bioresources,

*³ 三重大学生物資源学部 Mie University Faculty of Bioresources

キーワード: 潜水橋 保全意識 農村景観

4.調査結果

今回のアンケートでは、回答者に高齢の方が多かったため、旅行先を決める際の決定要因としては“美味しいものを食べたい”“古くから残っている物を見たい”などの回答が多く、“身体を使って遊ぶ”“テーマパークに行きたい”といった活発に動くことを挙げる回答は少なかった。景観についての質問では、半数以上が好意的な回答をしていた。(Fig.1 複数回答有)昔から続いている景観は多くの方が好印象を持つ傾向があると考えられる。

また、Fig.2 より、無回答を除く全体の 57.8%(63/109 人)が沈下橋を利用したことがないと回答しており、Fig.3 より地域内(津市内)に沈下橋が多く残ることを知らない回答者が多いことがわかった。地域資源として活用を考える際には、沈下橋の存在を広く周知する必要があると考えられる。

沈下橋の保全に対しては、保全した方が良いとする回答が 86.6%(97/112 人)で好意的な意見も多く得られた。ただし、保全すべきでないという回答した内には身近で沈下橋における事故があった事を理由としている回答があり、安全面を危惧する回答が目立った。特に、男女間の意識の差として女性は男性に比べて沈下橋に対して事故の危険性を指摘する声が多かった。保全や地域資源として利用する際には、安全性の確保する必要がある。

5.まとめ

今回のアンケートでは高齢の回答者が多く、積極的に体を動かすことを目的に出かけるとした回答者が少なかったにも関わらず、“実際に風景を見たい”、“渡ってみたい”といった意見が多く、沈下橋の存在を知らせることで関心を持ってもらえる可能性が示唆された。同時に地域内の沈下橋や沈下橋自体への認知度の低さが明らかになったため、存在の周知が必要である。沈下橋を保全すべきだとする意見は多く、好印象を持つ回答者が多かったが、同時に安全面を理由に保全を反対する声も見られた。

参考：雲出川流域における潜水橋維持管理の現状，稲垣ら，2016，H28 農業農村工学会大会講演会

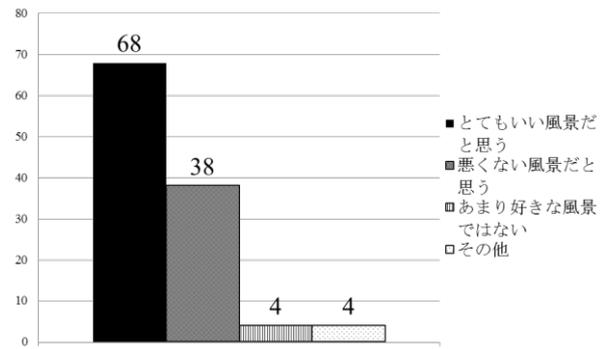


Fig.1 沈下橋のある景観への印象

Impression to landscape with submerging bridge

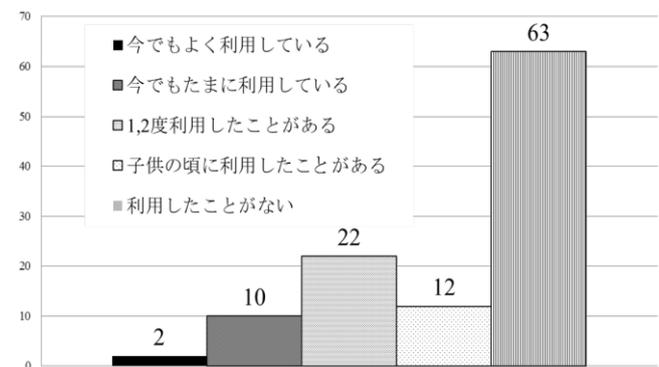


Fig.2 沈下橋の利用経験

Utilization experience of f submerging bridge

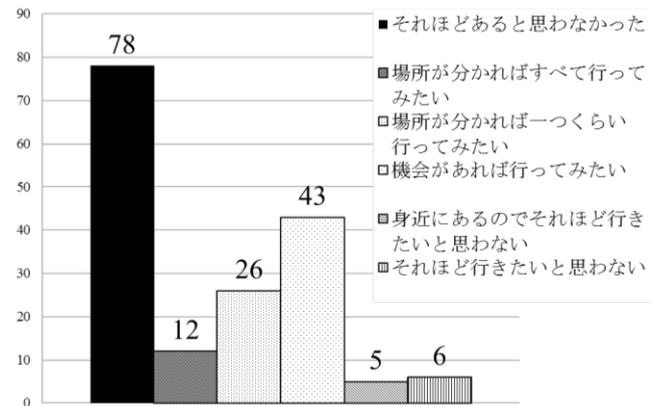


Fig.3 津市内にある沈下橋への意見

Opinion to submerging bridge in Tsu city